

国語科学習指導案

指導者 槇田 有香

- 1 日 時 平成24年9月11日（火）
- 2 学 年 第3学年1組 23名 [3年1組教室]
- 3 単 元 名 「はたらく犬 もの知り事典」をどうぞ
(学習材:「もうどう犬の訓練」東京書籍3年下)

4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

- | |
|---|
| (1) エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。 |
|---|

本単元では、「はたらく犬 もの知り事典」作りという活動目標を設定し、人の役に立つ働く犬（盲導犬、聴導犬、介助犬、災害救助犬、警察犬、セラピー犬など）について書かれている本や資料について読み、もの知りカードにまとめるという活動を通して、大事な言葉や文章を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読み取る力を育てることをねらいとしている。

本単元では説明文「もうどう犬の訓練」を扱う。児童にとって身近で親しんでいる犬を「ペット」とは異なる「働く犬」として取り上げている。児童は盲導犬として一人前になるまでの訓練の内容や根気強く繰り返し指導される訓練士の方の取組については、あまり知らないであろう。

本教材文「もうどう犬の訓練」は、「始め」「中」「終わり」で構成されている。「始め」には、犬の特長と働く犬および盲導犬の定義、「中」には、訓練の様子・盲導犬としての心構え、「終わり」には、1人前の盲導犬としての暮らしが書かれている。また、「1さいになると」「さいしょは」「次は」「訓練を通して」「こうした訓練は」「さらに」「訓練を終えて」という言葉に着目することによって、段落ごとのまとまりがわかりやすくなっている教材である。さらに、訓練の内容が、それぞれのまとまりの第一文で簡潔に述べられ、続いて具体例が挙げられている。そのため、意味のまとまりや、その関係を考えながら文章の要点や細かい点に注意しながら読むという読み方を身に付けさせることに適した教材である。

さらに教材文での読みを生かし、盲導犬以外の人のために働く犬について関連した他の本や文章を読み広げ、資料収集を行わせることは、「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」に関わる。

以上のことから、本単元において、働く犬について「はたらく犬 もの知り事典」にまとめるという学習活動を取り入れることにより、大事な言葉や文章を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読み取ることができると考える。

- 本学級の児童は、説明的文章として1学期に「だん落に気をつけて読もう『自然のかくし絵』」を学習した。説明的文章が「始め—中—終わり」によって構成されていることや「始め」と「終わり」の対応関係を意識することはできるようになってきた。また、段落ごとに内容をとらえながら読み取らせるために、中心となる語や文などを意識しながら読むことに重点を置いて学習し

てきた。そして段落ごとの内容を短くまとめる際に、繰り返し出てくる言葉や題名とつながりがあると
思う言葉などのキーワードを見つけ、書いてあることを短くまとめる活動を行った。しかし段落ご
との内容をとらえることが難しい児童も数名いた。学習後に実施した説明的な文章のテストにお
ける「段落ごとに書かれている内容を正しく読み取っている」の正答率は83% (19/23人) であり、
課題が見られる。

読書については、毎日の朝読書や給食の待ち時間などを利用して継続した読書活動を行っている。
児童が読む本の種類は、物語や伝記、図鑑やクイズなど様々だが、説明的な文章を読んでいる
児童は少ない。

- 指導にあたっては、児童が意欲的に「はたらく犬」について調べ、大事な言葉や文を押さえて、
教材文や調べた本に書かれている内容を短くまとめながら読み取る力を培うことをねらいとして、
次の3点において工夫していく。

第一に、単元の始めに「はたらく犬 もの知り事典」をつくり、それを2年生にプレゼントするこ
とを児童に知らせ、児童の学習意欲を高める。また、人の役に立つ働く犬にはどんな犬が
いるか例を挙げて、単元の学習活動に対する児童の興味関心を喚起し、読む意欲を高める。
また、図書室から関連図書を借り、教室に「『人の役に立つはたらく犬』コーナー」を設けて、
いつでも児童が本に触れることができる環境を作る。

第二に、教材文「もうどう犬の訓練」を用い「はたらく犬 もの知りカード」を作る際には、
大事な言葉や文を取り出して短くまとめる要約の仕方を習得させる。形式段落ごとに書かれて
いる盲導犬の訓練の内容について、順に読み取っていく。「一さいになると」「さいしょは」「
次は」などの順序や時期を表す言葉や「たとえば」に書かれている具体例に着目して、訓練の
内容を読み取り、「はたらく犬 もの知りカード」に要約していく。教材文を通してつけた読み
の力を「人の役に立つ働く犬」についての「はたらく犬 もの知り事典」作りに生かすことが
できるようにする。

第三に、「はたらく犬 もの知り事典」作りでは、見つけた本や資料の中から大事な言葉や文に
付箋を貼らせ、メモできるワークシートを用意しておく。

また、本文の丸写しになってしまうように、大事な言葉に着目するようにアドバイスし、
児童が本や資料の中の言葉を省いたり、書き換えたりして短くまとめることができるように
する。さらに、作成した「はたらく犬 もの知り事典」をペアやグループで交流し、知り
たいこと(自分の課題)として挙げたことと、調べてまとめた文章とが対応しているかどう
か、確認させる。

5 研究主題との関わり

(1) 扱う言語活動例

記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。

(読むこと 言語活動例イ)

(2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

本単元では、大事な言葉や文章を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読み取る
力を付けるために、人の役に立つ働く犬(盲導犬、聴導犬、介助犬、災害救助犬、警察犬、
セラピー犬など)について書いてある本や資料などを読み、「はたらく犬 もの知り事典」
にまとめる学習を取り入れる。

6 単元の目標

- 「はたらく犬 もの知り事典」を作ることに興味をもち、人の役に立つ働く犬について
の本や文章を進んで読んでいる。 【国語への関心・意欲・態度】

- ◎ 文章の要点や細かい点について注意しながら読み、書かれている内容を要約することができる。 【読むこと エ】
- 人の役に立つ働く犬について知りたいことを、色々な本や資料で調べながら読むことができる。 【読むこと カ】

7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	○「はたらく犬 もの知り事典」を作ることに関心を持ち、人の役に立つ働く犬についての本や文章を進んで読もうとしている。	◎文章の要点や細かい点について注意しながら読み、書かれている内容を要約している。 ○人の役に立つ働く犬について知りたいことを、色々な本や資料で調べながら読んでいる。
学習活動における具体の評価	○「はたらく犬 もの知り事典」を作ることを通して、文章の要点や細かい点について注意しながら読み取っていくという学習活動に関心を持とうとしている。 ○自分の学習課題に関連する本を探して読もうとしている。	◎盲導犬の訓練について、大事な言葉や文章を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。 ○知りたいことを、関連する内容の本や資料を探して読んでいる。 ○多読で得た情報を要約しながら、「はたらく犬 もの知りカード」にまとめている。

8 指導計画（全11時間）

次	学 習 活 動	評 価			
		関	読	評価規準	評価方法
一	人の役に立つ働く犬について知っていることを話し合い、様々な「はたらく犬」がいることを知る。 『「はたらく犬もの知り事典」をどうぞ』の単元全体の活動の流れを知る。 (1)	○		○ 人の役に立つ働く犬について、直接体験したことや見聞したことを振り返り、話し合いに参加している。 ○「はたらく犬」に関心を持ち、教材文の内容や「はたらく犬 もの知り事典」を作る学習活動に意欲をもっている。	行動観察
二	教材文「もうどう犬の訓練」を読み、大事な言葉や文を見つけ、書いてある内容を「はたらく犬もの知りカード」に短くまとめながら読み取る。(4, 本時3/4)		◎	◎ 盲導犬の訓練や心構えについて、大事な言葉や文章を見つけ、書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。	行動観察 はたらく犬もの知りカード
一	自分の課題を決め、人の役に立つ働く犬について書かれてある本を読んだり、インターネットで検索したりする。 (2)	○		○ 自分の学習課題に関連する本を探して読もうとしている。	行動観察

	得た情報を「はたらく犬 もの知りカード」にまとめていく。(2)	○	○ 多読で得た情報を要約しながら、「はたらく犬 もの知りカード」もの知り事典にまとめている。	行動観察
	完成した「はたらく犬 もの知りカード」について意見交流をする。(1)	○	○ 友だちの「はたらく犬 もの知りカード」を自分との違いを考えながら読んでいる。	もの知りカード
四	「はたらく犬 もの知り事典をつくろう」の学習活動を振り返る。(1)	○	○ 単元を振り返り、自己評価し、これからの学習活動に生かそうとする意欲をもっている。	行動観察 振り返りカード

9 本時の展開

(1) 本時の目標

「人を安全に導く訓練」について、叙述から読み取り、「はたらく犬 もの知りカード」に短くまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

○ 「人を安全に導く訓練」について、叙述から大事な言葉や文章を見つけ出しながらかみ、短い文章で「はたらく犬 もの知りカード」にまとめている。 [読むこと]

(3) 本時のポイント

「人を安全に導く訓練」について、教材文の叙述をもとに読み取らせる。大事な言葉や文にサイドラインを引いたり、具体例に線で囲ませたりして、読み取ったことを「はたらく犬 もの知りカード」にまとめることで、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することができるようにする。

(4) 準備物

「はたらく犬 もの知りカード」、盲導犬の写真、黒板提示カード

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
1 前時の学習を想起する。	○前時に学習した盲導犬になるための訓練として、「人間の言うことに従う訓練」があったことを振り返り、本時のめあてを設定する。	
2 本時のめあてを知る。	○学習めあてを読んで、確認させる。	
「人を安全に導く訓練」の「はたらく犬 もの知りカード」を作ろう。		
3 形式段落⑨～⑫を読み、「人を安全にみちびく訓練」を読み取る。	○形式段落⑨～⑫を読み、「人を安全にみちびく訓練」について書かれている文章に、サイドラインを引かせる。 ○「たとえば」の後の具体例を線で囲	

	ませる。	
4 「人を安全にみちびく訓練」について話し合う。 (ペア→全体)	○第4段落「人を安全にみちびく訓練」は、どんな訓練か発表させ、具体例も挙げさせる。 ○人を安全にみちびく訓練が、「動物としての特長を『生かしている』『おさえた』ものであること(②段落)」について考えさせ、理由も付けて意見を言わせる。	
5 「はたらく犬 もの知りカード」にまとめる。	○「人を安全にみちびく訓練」について、読み取ったことや話し合ったことをもとに、大事な言葉や文を選びながら、短くまとめさせる。 ○まとめることが難しい児童には、本文の中の言葉や具体例を省いたり、書き換えたりして短くまとめるようにアドバイスする。	○「人を安全にみちびく訓練」を叙述から読み取り、もの知りブックに短くまとめることができる。 (はたらく犬 もの知りカード)
6 「はたらく犬 もの知りカード」を交換し、感想を交流する。 (ペア)	○「はたらく犬 もの知りカード」を交換し、「人を安全にみちびく訓練」が、大事な言葉や文を選んで、短くまとめられたものになっているか、交流させる。	
7 本時の学習を振り返る。	○本時の学習を通して、盲導犬の訓練についての感想や意見を『はたらく犬 もの知りカード』の「調べた人から一言」に書かせる。	